

卒業後3年次アンケート（2021年度実施）集計結果

京都大学文学部・文学研究科では、卒業・修了後3年目の方を対象に、本学部・研究科を振り返って評価してもらうアンケートを実施し、その結果を公開しています。

ご協力いただきました卒業生・修了生の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

【実施時期】

2021年11月4日～11月30日

【実施方法】

連絡先住所が判明している2018年度卒業生132名に依頼状を郵送し、京都大学アンケート支援システムにて回答を依頼した。卒業生からの回答数は42、回答率は31.8%で、昨年度（回答数34、回答率23.6%）に比べて回答数、回答率ともに上昇した。

【結果の概評】

Q.06「振り返ってみて、あなたは文学部で学べたことに満足していますか」については、「十分に満足している」および「それなりに満足している」とする回答が、合計でおよそ90%となった。これは前年度と同程度の数値であり、文学部の教育が高い満足度を維持していることがうかがえる。

Q.03「文学部での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について、以下より選択してください」（複数選択可）では、回答率の高かった順に「一般的な教養や知識」「専門的な知識と技術」「自学自習の姿勢」「自分で問題を発見し、解決を図る能力」「外国語の能力」が上位を占めた。いずれもこれまでの調査で上位に入っている項目だが、各項の今年度の選択率は前年度に比べて一様に低下している。今後の動向にすこし注意する必要があるだろう。

【自由記述欄】

Q.04「文学部での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に記述してください。」

昨年度と同じく、研究テーマを自由に決定できること、興味の赴くままに学ぶことができることなど、文学部の自主性を尊重する学風を評価した意見が多かった。また常識を疑う態度や、自身の偏見に気づくこと、未知の物事を探求する力・意欲、自分の意見をもつことなど、授業を通して培われた資質への評価も目についた。いずれも文学部の教育の特色を反映しているものと考えられる。以下に特徴的な回答を列挙する。

- ・研究テーマや手法に関して、制限や強制を受けず自由な研究をすることができた。
- ・興味の赴くままに好きな学問に耽ることができたのは何にも代えがたい時間でした。
- ・自由度の高い学び。
- ・自分のやりたいことを自由に研究させてくださる教授の存在が非常に大きく作用した。自由に、かつ贅沢に時間を使い、卒業研究に必要なものに限らず幅広い文献に触れる機会

を頂けたというのは、自学自習を重視する京大だからこそ可能であったものとする。

- ・ 専攻する分野に限らず、幅広い分野の講義を受けられた点。
- ・ 人文系学問の様々な分野に触れた経験が、社会に出て見聞きする物事に対して多様な視座や興味を持つことに繋がっていると感じる。
- ・ 研究発表で「自分はどう思うのか」を徹底的に問われたこと。仕事をする上でも、まず自分の意見をもつことを意識するようになり、自分の評価につながった。
- ・ 未知の物事を探求する力や意欲を身につけることができました。
- ・ 常識とされているものを疑うくせがついたところ。
- ・ 自分の中に巣くう偏見やステレオタイプに気づくことができた点。
- ・ 実地調査等の素養が身についた。
- ・ 図書館の蔵書が豊かだった。
- ・ 勤務してからも休日は研究室の仲間と引き続きオンラインで勉強会を開くなどして少しずつではあるが勉強を続けている。そういう興味の惹かれる分野、そういう仲間を見つけることができる場所。学生の自主性を信頼する文化。

Q.05「文学部での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に記述してください。」

例年と同様に自主性を尊重する学風のマイナス面をうったえる意見が見られた他、授業が体系的でないという批判、共同作業や学生間の議論を伴う授業が少ないという指摘が散見された。また1年次から専門の授業を受けたいという要望、経済的な支援や精神的なケアの拡充を求める意見も見られた。以下に特徴的な回答を列挙する。

- ・ 全体的に体系立ってなく、自学自習に任せるところが多かった。任せるにしても何をどのように学ばよいか、そういった指導があっても良かったのでは。
- ・ 体系的に知識を学ぶことのできる概論的な講義があまりなかった。学部生向けの入門講義などがあるといいのではないか。
- ・ 就職のために大学があるわけではないが、コミュニケーションをとり共同でしていくことはどこでもありうることだと思うので、勉学のなかでも取り入れてほしかった。
- ・ 学生同士意見を出し合う形の講義が少なかった。
- ・ 誰かと一緒にする研究が少なかった。
- ・ 学部生と大学院生との間に距離があり、あまり交流がなかったこと。
- ・ 1年生の時点で特殊講義を受講することができなかった。大学で専門的な講義を受講できるのを楽しみにしていたので残念だった。もちろん、1、2年生の間は基礎的な教養や学習が必要だと思う。とはいえ基礎的な勉学の重要性は、専門的な講義を受講したり自らが研究の道に進み始めたりしてから初めて気づくものであった。要望は三点だ。1年生の時点で教授や准教授から専門の講義を受ける機会を提供してほしい。1年生のころから大学院生と交流できる機会を提供してほしい。大学院に進学希望の学生同士の交流機会を提供してほしい。
- ・ 研究生活を楽しく過ごせたのは、家族からの経済的支援や、教員との出会いなど、自らが偶然環境に恵まれたからだと感じる。勉強に励む前提として、経済的・精神的な安定

は非常に重要であり、経済的な支援策や精神面のケアなどがより充実すれば良いと感じる。

- ・ 自分で文学部を選択しているので不満はないのですが、やはり社会人として必要な力と学んだ学問はほぼ繋がっていません。
- ・ 卒業後のキャリアパスにおいて強みが持てるよう、学部在学中にも何かしらの専門的スキルを身につけることが必要であると思います。

アンケート名 2021年度 卒業後・修了後3年次アンケート

部局 文学部

対象者数 132

回答者数 42

回答率 31.8

結果 (Q.01) あなたが属していた系(専攻)を教えてください。

- A: 哲学基礎文化学系(思想文化学専攻) (2票/4.8%)
- B: 東洋文化学系(文献文化学専攻・東洋系) (7票/16.7%)
- C: 西洋文化学系(文献文化学専攻・西洋系) (4票/9.5%)
- D: 歴史基礎文化学系(歴史文化学専攻) (6票/14.3%)
- E: 行動・環境文化学系(行動文化学専攻) (18票/42.9%)
- F: 基礎現代文化学系(現代文化学専攻) (5票/11.9%)
- G: 無回答 (0票/0%)



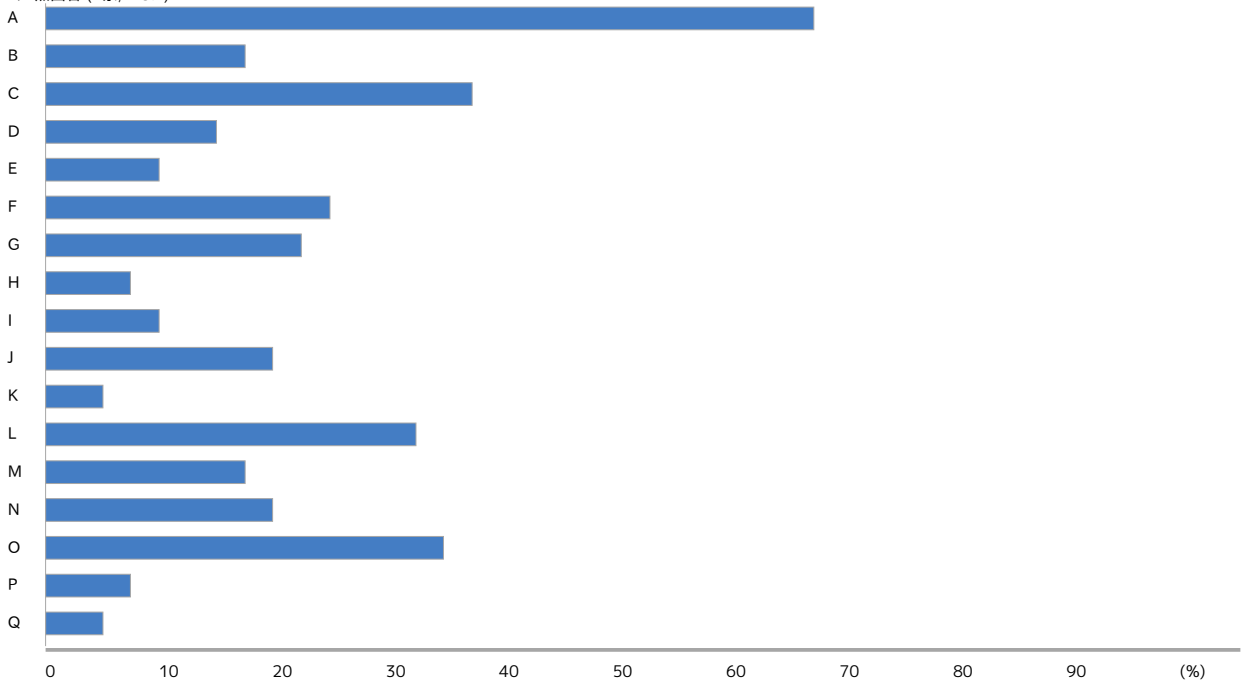
(Q.02) あなたの現況について教えてください。

- A: 社会人(一般企業等で就労) (23票/54.8%)
- B: 社会人(官庁・地方自治体等で就労) (9票/21.4%)
- C: 社会人(教員・司書等の専門職として就労) (3票/7.1%)
- D: 社会人(非就労) (1票/2.4%)
- E: 学生・院生(京都大学) (6票/14.3%)
- F: 学生・院生(他の大学) (0票/0%)
- G: 学生・院生(その他の学校) (0票/0%)
- H: その他 (0票/0%)
- I: 無回答 (0票/0%)



(Q.03) 文学部(文学研究科)での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について、以下より選択してください(複数選択可)。

- A: 一般的な教養や知識 (27票/64.3%)
- B: 社会的な常識 (7票/16.7%)
- C: 専門的な知識と技術 (15票/35.7%)
- D: 専門分野の研究能力 (6票/14.3%)
- E: 国際感覚や国際性 (4票/9.5%)
- F: 外国語の能力 (10票/23.8%)
- G: 企画力や創造的思考力 (9票/21.4%)
- H: 実行力 (3票/7.1%)
- I: 協調性やチームワーク (4票/9.5%)
- J: コミュニケーション能力 (8票/19%)
- K: リーダーシップ (2票/4.8%)
- L: 自分で問題を発見し、解決を図る能力 (13票/31%)
- M: 自己管理能力 (7票/16.7%)
- N: 倫理観 (8票/19%)
- O: 自学自習の姿勢 (14票/33.3%)
- P: その他 (3票/7.1%)
- Q: 無回答 (2票/4.8%)



(Q.04) 文学部（文学研究科）での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に記述してください。

(Q.05) 文学部（文学研究科）での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に記述してください。

(Q.06) 振り返ってみて、あなたは文学部（文学研究科）で学べたことに満足していますか。

- A: 十分に満足している。(13票/31%)
- B: それなりに満足している。(24票/57.1%)
- C: どちらとも言えない。(2票/4.8%)
- D: あまり満足していない。(2票/4.8%)
- E: 満足できず、後悔している。(1票/2.4%)
- F: 無回答 (0票/0%)



修了後3年次アンケート（2021年度実施）集計結果

京都大学文学部・文学研究科では、卒業・修了後3年目の方を対象に、本学部・研究科を振り返って評価してもらうアンケートを実施し、その結果を公開しています。

ご協力いただきました修了生の皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

【実施時期】

2021年11月4日～11月30日

【実施方法】

連絡先住所が判明している2018年度の修了生（修士56名、博士26名）に依頼状を郵送し、京都大学アンケート支援システムにて回答を依頼した。修士課程修了生の回答数は15（回答率26.8%、前年度は21.3%）、博士後期課程修了生からの回答数は10（38.5%、前年度と同率）で、修士の回答率は昨年度より上昇したが、依然として低い状態にとどまっている。

【結果の概評】

〈修士課程〉

Q.06「振り返ってみて、あなたは文学研究科で学べたことに満足していますか」では、前年度につづいて全員が「充分」（66.7%）または「それなり」（33.3%）に「満足している」と回答した。文学研究科修士課程の教育が高い満足度を維持していることがうかがえる。

Q.03「文学研究科での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について、以下より選択してください」（複数回答可）では、「一般的な教養や知識」「自分で問題を発見し、解決を図る能力」及び「専門的な知識と技術」「専門分野の能力」が上位を占めた。おおむね例年通りの結果だが、前年度に比べて「一般的な教養や知識」の選択率が上昇した一方、「専門的な知識と技術」及び「専門分野の研究能力」の回答率は下がる結果となった（いずれも46.7%、前年度はそれぞれ69.2%、61.5%）。回答者の絶対数が少ないために単年度の結果に拘る必要はないと思われるが、今後の動向に注意したい。

〈博士後期課程〉

Q.06「振り返ってみて、あなたは文学研究科で学べたことに満足していますか」に対しては、全員が「十分に」もしくは「それなりに満足している」という回答だった。修士課程と同様、博士後期課程の教育も高い満足度を維持している。

Q.03「文学研究科での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について、以下より選択してください」（複数回答可）では、これまでと同様「専門分野の研究能力」「専門的な知識と技術」「自分で問題を発見し、解決を図る能力」「自主学習の姿勢」の選択率が高く、いずれの項目も回答者総数の70%から100%が選択する結果となった。研究者の養成を目的とする博士後期課程の教育が機能していることがうかがえる。その他に目についたところでは、「外国語の能力」の選択率が60%と大幅に上昇した（前年度は30%）。

また「自己管理能力」も50%に向上している（前年度は20%）。今回の博士後期課程の調査では多くの項目の選択率が上昇したが、こちらも回答者の絶対数が少ないため今後の動向を継続的に確認していく必要があるだろう。

【自由記述欄】

〈修士課程・博士後期課程〉

Q.04「文学研究科での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に記述してください」に対しては、研究における自由度の高さや原典の精読に基づく研究指導といった文学研究科の特色の一面を反映する意見が寄せられた。また教員の指導方法を評価する回答や、図書館や研究室などの研究環境の充実を挙げた意見もあった。以下に、特徴的な回答を列挙する。

〈修士課程〉

- ・ テーマを強制されることなく、自由に勉学できたところ。
- ・ まったく実践からは程遠いオーソドックスな学問をじっくり勉強できたこと。
- ・ 自分の関心に応じて、学外の研究会などの研究機会を積極的に持てる点。
- ・ 指導教員のおおらかな雰囲気。
- ・ 哲学、宗教学について専門的な知識が得られた。まず原典にあたるという姿勢が身についた。
- ・ 一見なんでもない文を多角的な視点から読み込むことができるところ、精読を楽しむことができるところ。
- ・ 指導教員からの指導や講義演習などで、最先端の研究に触れることができたり、明晰な議論の組み立て方を学ぶことができた。
- ・ 図書館や研究室などの研究環境がよかった。
- ・ 支援が少なく自分から動かなければならないところ。

〈博士後期課程〉

- ・ 自由に研究テーマを選べること。
- ・ 必要単位が多すぎず、自学の時間が確保できたこと。
- ・ 豊かな史料や本、論文を文学部の図書館で閲覧できること。
- ・ 他分野の院生と交流する機会が多かったです。

Q.05「文学研究科での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に記述してください。」

前年度と同様、自主性を尊重する文学研究科の学風のマイナス面を指摘する回答が散見された。また、事務手続きについての指摘や、教育面のサポートに対する要望、教員の人員不足に関する指摘などもあった。対応可能な要望については検討する余地があるだろう。特徴的な回答を以下に列挙する。

〈修士課程〉

- ・ あまりにも放任すぎて、どうしたらいいかわからないことがあった。
- ・ 各学生の自由度が高い分、研究室内の横のつながりは期待しづらい点があった。
- ・ 研究発表の頻度をより増やしてもよかったのではないかと思う。学生だけで研究するのは限界があるので。
- ・ 自学自習は大事だと思うが、もう少し指導教官と学生のコミュニケーションが活発でもよかったと思う。
- ・ 事務職員の対応。

〈博士後期課程〉

- ・ 教育的なサポート体制、人員の不足。研究者として自立していくために必要なだけの教育が受けられたとは感じず、後輩に進学を強く勧められる環境ではなかった。
- ・ 事務的な手続きにおける不親切な面が目立った。学生目線でのサポートを充実してほしい。
- ・ 年度ごとのやるべきことやスケジュールを、もっと簡単に示せばと思います。
- ・ 学術論文の書き方を専門の講義や授業で教えていただければと思います。
- ・ 特にありません。

アンケート名 2021年度_修士_修了後3年次アンケート

部局 文学研究科

対象者数 56

回答者数 15

回答率 26.8

結果 (Q.01) あなたが属していた系(専攻)を教えてください。

A: 文献文化学専攻・東洋系 (2票/13.3%)

B: 文献文化学専攻・西洋系 (1票/6.7%)

C: 思想文化学専攻 (1票/6.7%)

D: 歴史文化学専攻 (2票/13.3%)

E: 行動文化学専攻 (7票/46.7%)

F: 現代文化学専攻 (2票/13.3%)

G: 無回答 (0票/0%)



(Q.02) あなたの現況について教えてください。

A: 社会人(一般企業等で就労) (5票/33.3%)

B: 社会人(官庁・地方自治体等で就労) (2票/13.3%)

C: 社会人(教員・司書等の専門職として就労) (2票/13.3%)

D: 社会人(非就労) (0票/0%)

E: 学生・院生(京都大学) (3票/20%)

F: 学生・院生(他の大学) (1票/6.7%)

G: 学生・院生(その他の学校) (0票/0%)

H: その他 (2票/13.3%)

I: 無回答 (0票/0%)



(Q.03) 文学部(文学研究科)での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について、以下より選択してください(複数選択可)

A: 一般的な教養や知識 (8票/53.3%)

B: 社会的な常識 (6票/40%)

C: 専門的な知識と技術 (7票/46.7%)

D: 専門分野の研究能力 (7票/46.7%)

E: 国際感覚や国際性 (6票/40%)

F: 外国語の能力 (5票/33.3%)

G: 企画力や創造的思考力 (5票/33.3%)

H: 実行力 (2票/13.3%)

I: 協調性やチームワーク (4票/26.7%)

J: コミュニケーション能力 (5票/33.3%)

K: リーダーシップ (0票/0%)

L: 自分で問題を発見し、解決を図る能力 (8票/53.3%)

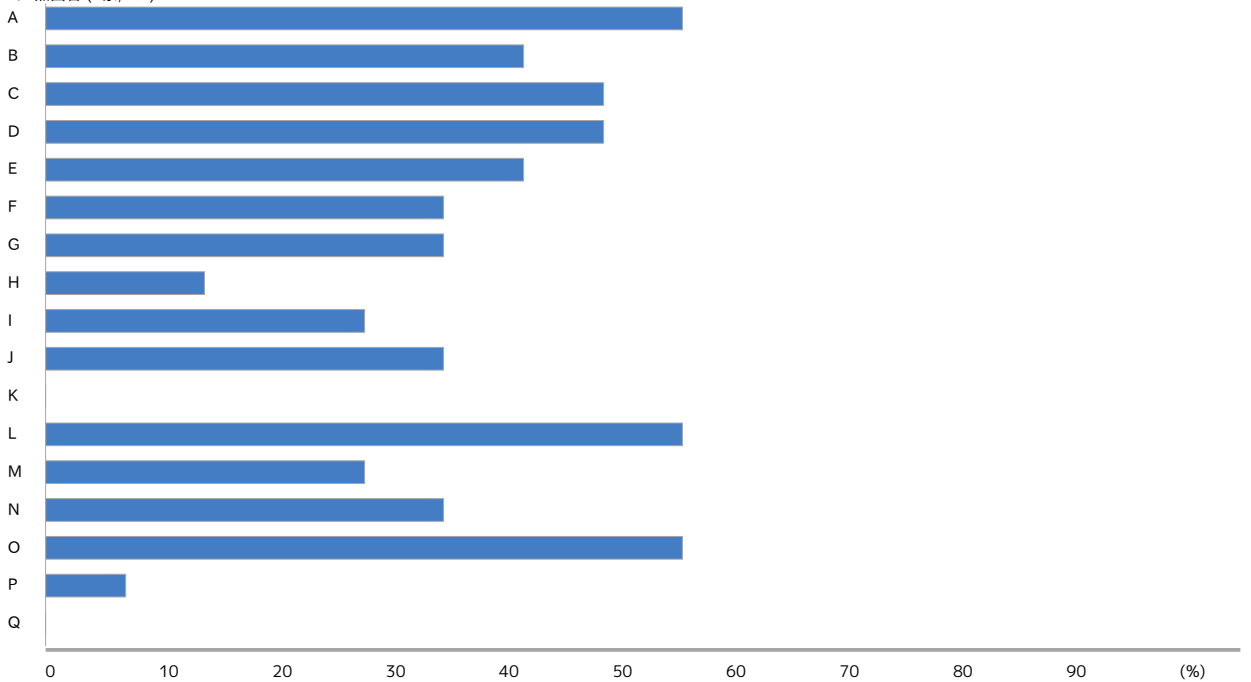
M: 自己管理能力 (4票/26.7%)

N: 倫理観 (5票/33.3%)

O: 自学自習の姿勢 (8票/53.3%)

P: その他 (1票/6.7%)

Q: 無回答 (0票/0%)



(Q.04) 文学部（文学研究科）での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に記述してください。

(Q.05) 文学部（文学研究科）での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に記述してください。

(Q.06) 振り返ってみて、あなたは文学部（文学研究科）で学べたことに満足していますか。

- A：十分に満足している。(10票/66.7%)
- B：それなりに満足している。(5票/33.3%)
- C：どちらとも言えない。(0票/0%)
- D：あまり満足していない。(0票/0%)
- E：満足できず、後悔している。(0票/0%)
- F：無回答(0票/0%)



アンケート名 2021年度_博士_修了後3年次アンケート

部局 文学研究科

対象者数 26

回答者数 10

回答率 38.5

結果 (Q.01) あなたが属していた系（専攻）を教えてください。

A: 文献文化学専攻・東洋系 (3票/30%)

B: 文献文化学専攻・西洋系 (0票/0%)

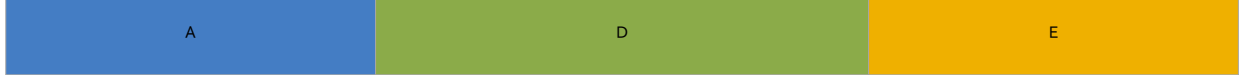
C: 思想文化学専攻 (0票/0%)

D: 歴史文化学専攻 (4票/40%)

E: 行動文化学専攻 (3票/30%)

F: 現代文化学専攻 (0票/0%)

G: 無回答 (0票/0%)



(Q.02) あなたの現況について教えてください。

A: 社会人（一般企業等で就労） (0票/0%)

B: 社会人（官庁・地方自治体等で就労） (0票/0%)

C: 社会人（教員・司書等の専門職として就労） (8票/80%)

D: 社会人（非就労） (0票/0%)

E: 学生・院生（京都大学） (0票/0%)

F: 学生・院生（他の大学） (1票/10%)

G: 学生・院生（その他の学校） (0票/0%)

H: その他 (1票/10%)

I: 無回答 (0票/0%)



(Q.03) 文学部（文学研究科）での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について、以下より選択してください（複数選択可）

A: 一般的な教養や知識 (3票/30%)

B: 社会的な常識 (3票/30%)

C: 専門的な知識と技術 (9票/90%)

D: 専門分野の研究能力 (10票/100%)

E: 国際感覚や国際性 (4票/40%)

F: 外国語の能力 (6票/60%)

G: 企画力や創造的思考力 (3票/30%)

H: 実行力 (3票/30%)

I: 協調性やチームワーク (2票/20%)

J: コミュニケーション能力 (2票/20%)

K: リーダーシップ (2票/20%)

L: 自分で問題を発見し、解決を図る能力 (9票/90%)

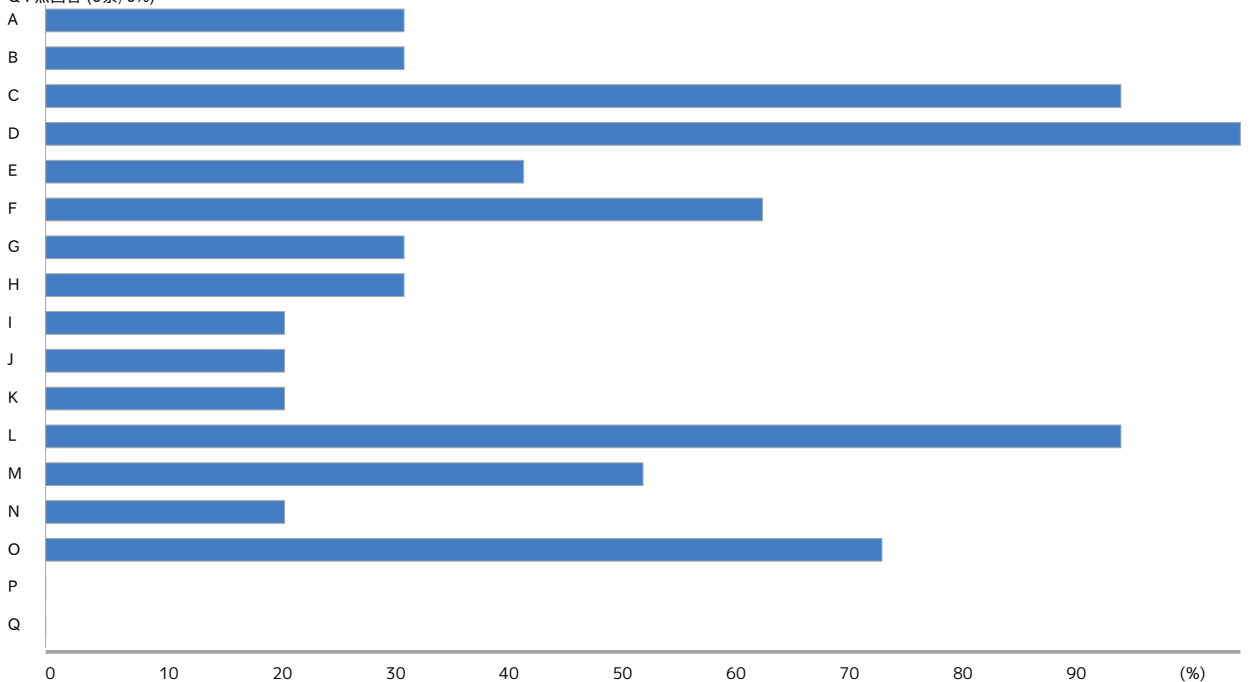
M: 自己管理能力 (5票/50%)

N: 倫理観 (2票/20%)

O: 自学自習の姿勢 (7票/70%)

P: その他 (0票/0%)

Q: 無回答 (0票/0%)



(Q.04) 文学部（文学研究科）での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に記述してください。

(Q.05) 文学部（文学研究科）での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に記述してください。

(Q.06) 振り返ってみて、あなたは文学部（文学研究科）で学べたことに満足していますか。

- A: 十分に満足している。(6票/60%)
- B: それなりに満足している。(4票/40%)
- C: どちらとも言えない。(0票/0%)
- D: あまり満足していない。(0票/0%)
- E: 満足できず、後悔している。(0票/0%)
- F: 無回答(0票/0%)

